第２学年１組　生活科　学習構想案

日　時　令和６年１１月２２日（金）第５校時
場　所　２年１組教室
指導者　教諭　丸野　公士

１　単元構想

単元名	「つながる　広がる　わたしの生活」（東京書籍『あしたへジャンプ　新しい生活下　P.81～89）
単元の目標	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりして、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとすることができるようにする。

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさに気付いている。	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり、伝えたいことを選んだりしている。	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、地域の人々に親しみをもち、進んで触れ合い、交流しようとしている。

単元終了時の児童の姿
自分たちの生活や地域の出来事に対して関心をもち、地域にある「人・もの・こと」と触れ合い交流することを生かして、地域のよさについて進んで楽しさを実感しながら、進んで知ろうとしたり関わろうとしたりする児童

単元を通した課題	本単元で働かせる見方・考え方
高森町のすてきに広めるために、自分ができることはどんなことだろう。	高森町のすてきに気付き、そのことについて考えたり交流したりすることで、地域生活には「人・もの・こと」に関する様々な魅力があると分かること。

指導計画と評価計画（１２時間取扱い　本時９／１３）

過程	時間	学習活動	具体の評価規準 ★は、記録に残す評価の場面で「具体の評価規準」
一	1	○町たんけんで見つけた町のすてきについて振り返り、本単元の学習を見通す。	【態】（発言） 町のすてきを知らせたいという思いをもち、詳しく考えようとしている。
	1	○全体で設定した、町のいろいろなすてきについて、「だれに」「何を」の視点で知らせたいことを全体で話し合う。	【思】（発言・ワークシート） 伝える相手を想定しながら、伝えたいことを選んでいる。
二	1	○電話や手紙などの調べたり依頼したりする手段を全体で確かめる。 ○町のすてきを知らせるグループを設定し、「知らせたいこと」「さらに詳しく知りたいこと」「どのように調べるか」についてグループで話し合う。	【知】（発言） 調べたり訪問を依頼したりする際、その道具を適切に使ったり、相手に伝わるようにやり取りしたりしている。 ★【思】（観察・発言） 伝える相手を想定しながら、伝えたいことを詳しく調べている。 【知】（発言・ワークシート） 町のすてきと関わることのよさに気付いている。
	2	○グループで話し合ったことをもとにして、町のすてきについて調べたり、調べたことをどうやって伝えるか考えたりする。	
三	3	○どうやって伝えるかを選び、調べたことをもとに町のすてきニュースにまとめる。	★【思】（観察・発言） 伝えたいことが適切に伝わるかどうか想定し、伝える手段を選んでいる。 【知】（観察・発言・ワークシート） 伝える相手に応じた伝え方があることに気付いている。 ★【態】（観察・発言・ワークシート） 町のすてきと関わることのよさを実感し、これからも進んで関わろうとしている。
	1	○各グループでまとめた町のすてきニュースについて、クラスで交流する。【本時】	
	1	○交流して考えたことや課題などを確かめ、話し合ったり修正したりする。	
	1	○各グループでまとめた町のすてきニュースについて、知らせたい相手と交流する。	
四	1	○町のすてきに関係する人にニュースを届け、交流する。	★【知】（観察・発言・ワークシート） 交流を通して、互いの気持ちがつながる心地よさに気付いている。 ★【態】（ワークシート） 自分が伝えたことで相手が喜んでくれたことを実感し、これからも地域の人々と交流しようとしている。
	1	○これまでの学習活動を振り返り、単元をまとめる。	

２　単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所
小学校学習指導要領「生活科 学校、家庭及び地域の生活に関する内容　内容（３）地域と生活 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容　内容（８）生活や出来事の伝え合い
教材・題材等の価値
本教材は、地域のすてきなところや人について学習したことをもとに紹介したり交流したりすることで、児童一人一人が地域の豊かさに支えられていることに気付くとともに、地域の一員として自分について考えることに適している。
本単元における系統

２年 「どきどき わくわく まちたんけん」	２年 「もっと なかよし まちたんけん」	２年 「つながる 広がる わたしの生活」
地域の様々な場所を訪問したり利用したりする活動を通して、地域の場所と自分の関わりを見つけ、様々な場所や様々な人がいることに気付く。	地域で生活したり働いたりしている人と自分たちの生活との関わりを見つけ、様々な人や場所と関わっていることや、地域の人々に寄せる思いに気付く。	地域の人々との関わりについて振り返り、地域の人々に支えてもらっていることや地域の一員として自分にできることについて考える。

児童の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元の学習に関する意識の状況（特別支援学級在籍児童２名を含む３１人が回答）

調査内容
これまでに学習したまちたんけんなどで、地域にはどんな人がいましたか。 ・子ども　・おじいちゃんやおばあちゃん　・散歩や運動をしている人　・お店などで働いている人　・お客さん（観光客）
これまでに学習したまちたんけんなどで、すてきだなと思うところや人を知っていますか。 ・知っている　26 人　　・知らない　4 人
それはどこですか。また、どんな人ですか。（だれですか。） ・からあげ屋さん　・駄菓子屋さん　・マドレーヌ屋さん　・高森駅のたまめさん ・高森湧水トンネルの人　・歯医者さん　・マルキチ醤油屋さん　・交流センターの人

■考察

児童はこれまでのまちたんけんを通して、地域には様々な人が生活していること、訪問した場所でいろいろな人が働いていることを理解している。

「町の人を元気にしている人」について、人と話したり人が作ったものを受け取ったりするなど、児童自身が嬉しいと感じた経験を想起している児童が多い。しかし、その人の思いやくらし（仕事）について知っている児童は少ない。

３　指導に当たっての留意点

研究テーマ	つなぐ　つなげる　つながりあう　生活科・総合的な学習の時間 ～「ふるさと阿蘇」の探究を通して、自己の生き方を問い続ける子供の育成～	
（１）視点１	**（２）視点２**	**（３）視点３**
子供の思いを引き出すための課題設定と単元構成の工夫（つなぐ） ・子供の思いや願いを引き出すための対象や事象との出会い方の工夫 ・合科的・教科横断的な授業デザインの展開	自らの学びを自覚し、次の学びにつなげる振り返りの工夫（つなげる） ・振り返りを書く際の視点の工夫 ・振り返りを生かし、次の探究活動へつなげる指導の工夫	課題解決に向け、子供同士のかかわり合いを生み出すための工夫（つながりあう） ・考えや意見を整理し、可視化する工夫 ・思いや考えを共有する場の工夫（学習環境づくり）

【本単元と研究テーマとの関連】

（１）　前単元「もっとなかよしまちたんけん」の学習を通して見つけた情報について、名前や場所、話を聞かせていただいて分かったことや体験を通して見つけたことなどを「町のすてき情報マップ」として掲示しておくことで、身近な人々をいつでも想起できるようにする。

（２）　児童が次時の学習活動への見通しをもって意欲を高められるように、振り返りにおいて具体的に発問しながら児童の気付きを引き出してから振り返りを書くようにする。

（３）　町のすてきに関する情報を「誰に」「何を」伝えるのかなど、児童が相互に確かめ合いながら共有できるように、「町のすてきお知らせ表」を作成して単元を見通せるようにする。

4　本時の学習

（1）目標　高森町のすてきについてまとめたことを互いに伝え合う活動を通して、気付いていなかった町のすてきに気付き、これからも進んで町のすてきと関わろうとすることができるようにする。

（2）展開

<table>
<tr><th>過程</th><th>時間</th><th>学習活動
（◇予想される児童の発言）</th><th>指導上の留意事項
（学習活動の目的・意図，内容，方法等）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">導入</td><td rowspan="3">10分</td><td>1　課題をつかむ。
①掲示物から、町のすてきについて振り返ったり、「何を」「誰に」知らせるのか確かめたりする。</td><td>○「町のすてき情報マップ」でこれまでの学習を想起できるようにする。
○「町のすてきお知らせ表」で前時までを確かめ、本時の学習活動への関心を高める。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【めあて】町のすてきニュースを伝え合い、「いいな」と思うところを見つけよう。</td></tr>
<tr><td>②学習課題を設定し、ニュースを見る視点を確かめる。
【学習課題】
町のすてきニュースにある「いいな」は、どんなところでしょうか。
◇どんなまとめ方をしているのか楽しみだね。

③ニュースを伝え合う活動の流れを確かめる。
◇はじめに発表だね。緊張せずに発表しよう。</td><td>○町のすてきに関する「いいな」や、ニュースの作成や発表に関する「いいな」など視点を明らかに提示することで、児童の主体性を引き出せるようにする。
○人前での発表に恥ずかしさを感じる児童の実態を踏まえ、教師自身もニュースを楽しみにしていることを伝え、児童の意欲を高められるようにする。
○発表の時間や順番などを事前に知らせておき、児童が見通せるようにする。</td></tr>
<tr><td>展開</td><td>25分</td><td>2　課題の解決に向けて活動する。
①町のすてきニュースを伝え合う。
◇このグループのニュースの「いいな」を見つけるぞ。
◇私たちのニュースは、○○さんが作っている■■のことです。家族に知らせようと思って、ポスターにまとめました。

②町のすてきニュースを聞いて見つけた「いいな」を発表する。
【期待される学びの姿】
町のすてきニュースを通して「いいな」と思うことを見つけるために、進んで考えたり発言したりしている。
◇私はニュースを聞いて、○○さんが作っている■■にはおいしくなる秘密があることを初めて知りました。私も家族に教えてあげたいです。</td><td>○発表する順番は、児童の希望を尊重しつつ、本時の目標を達成できるような順番を教師が意図して考える。
○教師が共感的姿勢を見せることで、積極的に指示的風土を作って安心して発表し合える環境を形成する。
○発表者の指名は児童に委ね、教師は児童の発言を整理して板書する。
○教師が発問したり、ペアで対話したりするなど、児童が最後まで主体的に学習できるようにする。
【具体の評価規準】態
町のすてきと関わることのよさを実感し、これからも進んで関わろうとしている。
（観察・発言・ワークシート）
【到達していない児童への手立て】
○ニュースで良かった点を具体的に提示し、児童が実感できるように声かけを行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">終末</td><td rowspan="3">10分</td><td>3　学んだことをまとめ、学習を振り返る。</td><td>○板書を見直し、気付いたことを確かめる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【まとめ】町のすてきニュースを発表したり聞いたりして、いろいろな人やもの、場所や出来事には「いいな」がたくさんあることに気付けた。</td></tr>
<tr><td>◇みんなのニュースから「いいな」に気付けたね。次の時間はいよいよ△△にニュースを伝えるから、「いいな」が伝わるように頑張ろう。</td><td>○町のすてきと関わることのよさを実感し、これからも進んで関わろうとする意欲を児童がもてるように、発問したりやりとりしたりする。</td></tr>
</table>